

日本YMCA同盟

THE  
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.835 2024

2024年4月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料63円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号  
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641  
URL : <https://www.ymcajapan.org/>  
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



## 「日中韓YMCA平和フォーラム」上海で開催

日本、中国、韓国のYMCAから約80人が上海に集まって2月1日～4日、「第9回日中韓YMCA平和フォーラム」が開催されました。このフォーラムは2004年から2年おきに行われているものですが、コロナ禍もあり、2017年以来6年ぶりの対面となりました。

各YMCAの代表者による平和のメッセージの分かち合いに続き、中国・復旦大学の胡令遠教授から「共に平和の船を漕ぐ——変化の世紀におけるユースの使命、責任、そしてその道筋」と題した基調講演があり、歴史を振り返りながら、今後の平和構築のために青年の文化交流への期待が語られました。

初日のフィールドトリップは、1945年まで日本人が多く居住していた虹口（ホンコウ）地区で、中国を代表する作家・魯迅の記念館等を見学。翌日は、朝鮮が日本により植民地統治されていた当時、朝鮮人独立運動家が集った「大韓民国臨時政府跡」を訪ね、上海の街で交錯した3カ国の人々の生き様に思いをめぐらせました。

ウクライナ、パレスチナでの戦火が止まず、東アジアでもきな臭い報道が増える中で今回のフォーラムは開催されました。さまざまな対立が深まる今こそ私たちは対話を重ね、交流を通して友情を深め、平和を構築しなければなりません。今後もこのフォーラムを継続し、ここで確認したことを実行しながら、東アジアそして世界の平和の実現のために一層努力していきたいと、参加者一同であらためて確認しました。

日本YMCA研究所 研究員 田附 和久



グループディスカッションをする星さん（前列右）と肖さん（右から2番目）

### ユースの感想より

ショウ キンイ  
肖 欣怡さん 横浜YMCA職員

「今のユース世代には、平和を作る力がある」。基調講演で胡教授が語った言葉が印象に残りました。教授いわく私たちの世代は、平和な環境で育っているので戦争を嫌い、平和的な解決方法を選ぶとする。アニメや音楽など文化交流が盛んで互いに好感をもっている。過去の価値観にとらわれずに未来を考えることができる——。日ごろ私は、今のアジア情勢の中で平和を築く難しさを感じていましたが、私たち世代は無力ではないと気づき、励まされました。

最終日には「平和へのアクション」というテーマでユースによるグループディスカッションが行われ、「対面での交流」「思いやり」「みんなが一つに」といったキーワードが出されました。短い話し合いでしたが、今回をきっかけに交流を続け、平和へのアクションを実行していきたいと思っています。

星 太郎さん 京都大学YMCA

一番心に残ったのは、中国・韓国の人たちと交流できたことでした。私は大学入学以来4年間、コロナ禍で国際交流の機会がなかったので、お互いに片言の英語で話して交流したことが何より新鮮でした。自分の故郷のキーホルダーなど、たくさんのお土産をくれた中国のユース。堂々と意見を語る韓国の学生たち。一つ一つに発見がありました。

私は大学で政治哲学を勉強していて、平和について考える機会もありますが、今回のような交流の中に、平和の芽、平和へのヒントがあるんじゃないかと思いました。実際は、短期間だったので深い話をするには至りませんでしたし、3カ国共催の難しさを感じる場面もありました。当初予定の南京を訪問できなかったのも残念でしたが、何年かたった後で、ああそうだったのかと気づくような、自分にとって大きな経験になったと思います。

## 能登半島地震 ～輪島の避難所から～

YMCAは1月から、金沢市に設置された「1.5次避難所」と輪島市町野町の「1次避難所」にスタッフを派遣し、支援活動を行っています。1月24日から3月3日まで町野町で支援にあたった東京YMCAの中里敦さんに、現地の様子を聞きました。

### 被災者を孤立させない支援を ———— 東京YMCA 中里 敦



自衛隊の給水を手伝う中里さん

町野町は、輪島市の中心から約20kmの山あいであり、道路の損壊も激しく、一時は孤立状態となった町です。「倒壊した家から助け出された」「助かったのは奇跡だった」。避難者からは、命がらに避難所にたどりついた経験をお聴きしました。アクセスが悪いため、今も倒壊した家の撤去が進まず、復旧にも時間がかかっている地域です。

避難所は、東陽中学校と町野小学校の2カ所に設置され、多いときで約500人、3月現在では約80人が避難しています。その運営は、自身も被災者である市役所の職員と避難者自身で行われており、地元で料亭を営んでいた方が中心となって食事を作るなど、助け合いながら生活しています。

YMCAは輪島市からの要請を受け、休みもとれずに働いている市職員の応援を主な役割として、1月24日からこの避難所に入りました。近くに宿泊場所がないため、私たちもこの学校の教室で寝食を共にしながら、避難所の生活全般をサポートしました。水がない中でのトイレ掃除。避難所内の物資の整理。入所や退所の手続き。あるときは、地盤沈下で埋まった浄化槽工事のため土砂の掻き出しなどもしました。こうした日々の作業を避難者と共に担い、声をかけあう中で、次第に皆さんの笑顔がみられるようになったことは、うれしいことでした。つらい気持ちをかかえながらも私たちを受け入れてくださった能登の方々の温かさ、そして助けて生きていこうとする強い思いに、私自身も何度も励まされました。

震災から2カ月が経ち、疲れが出る頃となりました。「壊れた家をどうしたらいいのか」「事業は再建できるのか」。先行きの見通しが立たない不安の中で、次の選択を考えなければなりません。引越しや片付けなど作業もこれからです。大きな困難に直面する被災者を孤立させることのないよう、引き続き心を寄せ、支援していきたいと思います。

▼支援活動の詳細は、ホームページで。ただいま第二次募金受付中です。

[https://www.ymcajapan.org/noto\\_sien/](https://www.ymcajapan.org/noto_sien/)



## ピンクのシャツで いじめに反対 #ピンクシャツデー

毎年2月の最終水曜日に行われる「ピンクシャツデー」に、今年もまた全国のYMCAが参加。保育園や水泳クラス、キャンプ、専門学校など、YMCAのあらゆる活動現場で子どもたちが、ピンク色のシャツや小物を身につけて、いじめ撲滅のアピールをしました。

カナダ発祥のこの運動にYMCAが取り組み始めたのは2016年。今では全国YMCAで5万人以上が参加するイベントとなっています。ここ数年は、近隣の学校や他団体にチラシを配布するなどして運動の輪を広げているほか、本を読んで話し合ったり、研修会を行うなど、いじめについて考えを深める取り組みも増えています。

全国の学童クラブなどでは、子どもたちが解決策を話し合ったほか、大阪のYMCA学院高等学校では、無意識に相手を傷つけてしまう「マイクロ・アグレッション(小さな攻撃性)」について1カ月にわたって学習。横浜YMCAでは、「SOGIE(性的指向・性自認・性表現)」による差別をなくそうと、セクシャルマイノリティ当事者による講演会が行われました。全国YMCA発達支援事業部によるスタッフ研修では、精神科医の森昭憲さん(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター)を講師に、被害者・加害者への対処法を学ぶなど、いじめから子どもを守るため、各地で真剣な取り組みが展開されました。

▼詳細は、下記のフェイスブックをご覧ください。

<https://www.facebook.com/japanymcapinkshirtday/>



いじめの解決に何ができるか。全クラスで考えました(埼玉YMCA)



甲府市役所でピンクシャツデーを紹介する子どもたち(山梨YMCA)

## ウクライナ避難者支援 軍事侵攻から2年

### >>>ウクライナ避難者が語る「いま」「これから」

侵攻から2年となる2月23日、日本に避難しているウクライナ人と支援団体など約60人が都内の会場に集まり、避難生活の現状と課題を考えました。事前のアンケートで避難者は、日本の生活に満足している様子がうかがえた一方で、依然として「就労」や「教育」への相談が多く、将来への不安の声も寄せられました。12月に「補完的保護」が適用され、難民と同等の保護が受けられるようになったものの、NPO関係者からは、日本で暮らす難民の多くは安定した生活ができていない実態も指摘されました。安定した暮らしには、仕事はもちろん居場所や生きがい、友人作りも重要です。ウクライナ避難者の支援を機に、誰もが住みやすい社会を築く必要性が語られました。



### >>>ウクライナYMCA オンラインで近況配信

ウクライナYMCAの会員約20人が2月22日、世界のYMCAに向けて、2年間の思いや体験をオンラインで語りました。爆撃の恐怖や、知人の死に直面しながらも、「何かしなければ」と思い、物資を運ぶボランティアをしている」「キャンプで子どもを励ましている」など、痛ましい声に世界YMCAのカルロス・サンヴィー総主事は、「若者にこのような経験をさせている世界を反省しなければならない」と嘆き、引き続きYMCAファミリーとして支援していきたいと述べました。



▼詳細はホームページで

<https://www.ymcajapan.org/>

[ukraine-ymca-stands-for-peace-ymca-works-for-peace/](https://ukraine-ymca-stands-for-peace-ymca-works-for-peace/)

